

独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)
大阪みなと中央病院

〒552-0003 大阪市港区磯路1丁目7-1
TEL:06-6572-5721 <https://minato.jcho.go.jp/>

耳鼻咽喉科 部長 竹林 宏記
(涙道センター センター長)



**「涙道センター」で慢性涙嚢炎を専門的に
—内視鏡下DCRの患者さんは近隣のみならず全国から—**

■病院の概要

当院は1949年（昭和24年）に船員保険組合を母体とする「船員保険大阪診療所」として開設され、翌1950年に「船員保険大阪病院」となりました。そして、「大阪船員保険病院」を経て、2014年（平成26年）4月に、「独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)大阪みなと中央病院」へと移行しました。

大阪市港区は、かつて港町として繁栄した大阪市の西部に位置し、近隣には観光スポットとして知られる天保山や海遊館、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンなどがあり、外国人観光客や船員の患者さん

に多く来院していただいていました。2025年開催予定の大坂万博の開催予定地である夢洲の近隣でもあります。

そして2019年9月、新病院を大阪環状線の主要駅である弁天町駅前に移転し、大阪梅田、難波、天王寺などからもアクセスがよく、駅直結型病院として新しいスタートを切りました。

■診療体制

2019年10月現在、当科の構成は、診療部長の竹林宏記医師をはじめ、前田英美医師、今岡理仁医師と



病院外観



耳鼻咽喉科外来スタッフ
前列左から、北尾看護師、森医師、前田医師、竹林医師
後列左から、福永、川崎言語聴覚士、今岡医師

表1.診療担当表

	月	火	水	木	金
午 前	前田 今岡	竹林 福永	前田 今岡	森 竹林	福永 岡
午 後	手術	味覚外来	手術	補聴器外来	手術 補聴器外来

福永明子の計4人の体制となっています。非常勤医師として、森望医師（現名誉院長、香川大学名誉教授）、岡直人医師（兵庫医科大学）に診療していただいています。

外来診療は表1に示すとおり、基本的に月曜日から金曜日の午前中のみで、2診体制で行っています。専門外来は火曜日、木曜日、金曜日の午後に、また、手術は月曜日、水曜日（偶数週）、金曜日の午後にしています。

■診療の特徴

1. 慢性涙嚢炎

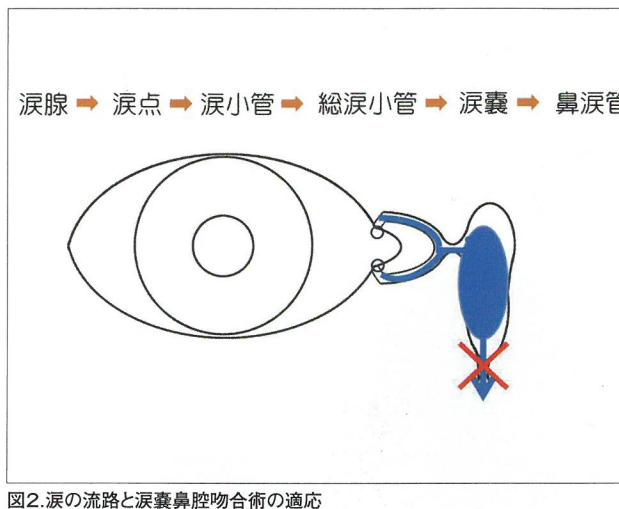
当科では慢性涙嚢炎に対する手術に特化した「涙道センター」を開設し、竹林医師を中心となって、慢性涎嚢炎に対する内視鏡下涎嚢鼻腔吻合術（E-DCR）に力を入れております。E-DCRは専門的に行っている施設が少なく、近隣の眼科専門医より紹介をいただくほか、全国のさまざまな地域から多くの患者さんに来ていただいている（図1）。



図1.涙道センターの手術実績
(患者住所地別:2012年4月~2018年10月)

涙は眼の外側上方にある涙腺から分泌され、眼瞼結膜を潤したあと、目頭にある上下の涙点から吸収され、上下涙小管、総涙小管、涙嚢を経て、最後は鼻涙管を通して鼻内に排出されます。

この排出路が閉塞（鼻涙管閉塞）すれば、涙液に涙液が貯留・停滞し流涙を認めるだけでなく、感染により涙嚢炎をきたし、慢性涙嚢炎に至ることがあ



ります（図2）。鼻涙管閉塞の原因の多くは不明ですが、スイミング、外傷、抗がん剤や点眼薬の副作用で起こることがあります。

第一の治療は、眼科で涙点からの通水、ブジー、また本来の通路を再開通させて涙管チューブを挿入する方法です。それでも改善しない症例や再発を繰り返す症例は、E-DCRの適応となります。

E-DCRの方法は、まず涙囊の存在する鼻堤部の鼻粘膜を削除したのち、同部の骨（上顎骨前頭突起）を削開し（図3）、涙囊をしっかりと鼻内に露出させます（図4）。手術は、眼科医に涙囊の位置をライトガイドしてもらしながら行います。最後に涙囊を切開し、鼻内に大きく開放して、涙管チューブを挿入し（図5）、手術の終了となります。

入院期間は約1週間で、手術時間は30~60分です。手術時の副損傷は、下眼瞼血腫が3%、術後出血が0.5%、再閉塞で再手術になる例は1%です。



2. 鼻科診療

慢性副鼻腔炎や好酸球性副鼻腔炎に対し、内視鏡下鼻・副鼻腔手術を施行しております。当科ではより安全に手術を行うために、ナビゲーションシステムを導入しています。

アレルギー性鼻炎には、短期入院でマイクロデブリッダーを使用した下鼻甲介手術（下鼻甲介粘膜下切除術）を施行しております。鼻閉に対しては非常に効果があり、5年から10年間ぐらいは効果が持続します。また、一般的なレーザー治療と比較して、効果の持続が長いだけではなく、鼻汁・くしゃみも軽減します。



3. 耳科・めまい診療

森医師が2015年4月の着任時より専門外来を担当しています。診療に加え、鼓膜形成術、鼓室形成術などの手術も施行しております。

4. 味覚障害・舌痛症

毎週火曜日の午後に、前田医師と福永が担当する味覚専門外来を行っております。

味覚脱失・低下のみならず、異味症、自発性異常味覚症、舌痛症、口腔乾燥症などに対する診療を行っています。電気味覚検査、濾紙ディスク法による味覚検査、亜鉛、鉄、銅などの血液検査、唾液検査などにより、病状を評価したうえで、治療します。

味覚障害は原因がわからないことが多いですが、亜鉛欠乏性、鉄欠乏性、薬剤性、全身疾患性（クローン病、潰瘍性大腸炎、胃切除後など）、心因性、医原性（中耳手術後、ラリンゴマイクロサージェリー、扁摘後など）などがあります。治療は、亜鉛製剤、漢方薬などを使用しております。

5. 頭頸部良性腫瘍

耳下腺腫瘍、頸下腺腫瘍、甲状腺腫瘍などの良性腫瘍の手術を行っております。

■手術実績

2018年度の中央手術部での手術実績は、表2に示すとおりです。

■おわりに

当科では涙道サージセンターを開設し、慢性涙囊炎に対するE-DCRを多く行っています。多くの症

表2.2018年度手術実績

鼻副鼻腔手術 (363例)	内視鏡下鼻副鼻腔手術	81側
	涙囊鼻腔吻合術	193側
	鼻中隔矯正術	51例
	下鼻甲介手術	37例
	副鼻腔腫瘍摘出術	1例
耳手術 (15例)	鼓室形成術	1例
	鼓膜形成術	3例
	乳突削開術	1例
	鼓膜チューブ挿入術	10例
頭頸部外科手術 (14例)	口蓋扁桃摘出術	6例
	舌、口腔腫瘍摘出術	1例
	喉頭微細手術	1例
	リンパ節生検術	1例
	甲状腺腫瘍摘出術	1例
	副甲状腺腫瘍摘出術	1例
	耳下腺腫瘍摘出術	4例
	頸部囊胞摘出術	1例
	気管切開術	3例
	気管孔閉鎖術	1例
	合計228例（重複含む）	

例を経験しながら、再閉塞で再手術になることをできる限りなくすため、さまざまな工夫を模索中です。

基本的に悪性疾患の治療は行っておりませんが、一般耳鼻咽喉科疾患のほかに、涙道疾患、鼻・副鼻腔疾患の手術に力を入れております。しっかりしたインフォームドコンセントを行ったうえでガイドラインにのっとり、より専門的な治療を目標にしております。

また、前田医師と福永は子育て中でありますフルタイムで勤務しております。当科のスタッフ同士の協力があり、関係が良好であることで勤務可能な環境を得ていると考えています。

今後も課題は多くありますが、当科の特色を生かして一層精進し、診療、手術、学会発表などをより充実させていきたいと思います。

（文責、福永 明子）